研究授業のご意見

国語

手だて②	予想する生徒の姿
話し合う必要性をもたせるために、危険度で表し、他者との違いに気付かせる。	100% 今の地球もイースター島と同じように人口増加で食糧難になる危険がある。 50% 人口増加で食糧難になる危険性はあるが、森の消滅は防げる。 0% 今と昔、地球と小さな島の規模はちがう。

・自分の考えを発表させられている感じが強く、意見の広がりがあまりなかった。
・危険度にこだわった話し方ができるとよい。
・「文明崩壊」のイメージがあいまいで、個によって違うのではないか。
・%の違いが分かりにくい。理由づけの数を決めて、同意見の割合で、%を決めてはどうか。

多様な視点に触れ、個人の考えを広げることができるように、グループ活動で話し合った後に、他のグループの考えに触れる交流タイムを設ける。	・共通点が多いから、私は理由づけに「人口が増えて農耕地が拡大している」を使おう。 ・他のグループの意見で「他の国と協力できる」「食料生産の技術革新」を見つけたよ。 ・理由づけを「人口が増えても、技術革新を使い、農耕地を広げずに食料を分け合える」にしよう。

・「根拠」「事実」「理由」に混乱があったのではないか。
・付箋には、短い単語で書かれたものが多かった。これで根拠を伝えるのは難しい。
・グループ編成を工夫していくと協働学習ができるのではないか。

自分の意見の妥当性について問い直し、説得力のある考えをもつために、他者の意見に対して自分はどう思うか考えさせる問いかけをする。	「森によって支えられている」 ・私も同じ考えで、木を資源として活用しているし、環境問題でも重要になってくるから。 ・私は、森の木だけではなく他の可能性も考えた。資源なら草や海藻も使える。

・自分の考えた危険度の根拠がたくさん語られるとよかった。もっと活発に話し合えるとよい。
・自分の考えが妥当なのか、自分の考えに説得力があるか、判断させるとよい。
・生徒の意見に価値づけをすると妥当性に注目できるのではないか。
・現代社会の抱える問題についての抱える問題を生徒があまり知らない。
・どこに向かっているか見失っている生徒がいたかも。根拠を示して批判的な意見を出すとよい。

手だて③	
本時の学習を振り返り、最終的な自分の考えの変容を実感するために、振り返りの視点を【⑤「危険度は変わったか」と「その理由」】に設定する。	80%→50% 森林を消滅させずに、人類が生き延びる他の可能性が理由づけに増えたから。 50%→50% 事実と結び付けて他の人の意見を聞いて、理由づけを増やしていったから、自分の意見は、より確かなものになった。

・生徒の意見を全体で共有してはどうか。
・説得力のある論にするための理由づけを厳選することが本時の目的になるとよい。
・変化を書くには、初めの根拠があいまいではないか。
・どのように成長を実感するのか。

授業者の振り返り

「モアイは語る」を読んでいく中で、筆者の論理の展開に納得できるか、できないかを考え、理由づけにあると説得力が増すものを生徒たちは見つけてきました。本時では、筆者の意見を支える「理由づけ」に対し、事実を基に妥当性を考えさせたいと思いました。この理由づけを自分の意見の理由づけに活用しようとしたことが方向性を見失わせていたと感じました。先生方のご助言をもとに次時の授業を行うと生徒が生き生きとしていました。これからも生徒が学びをたのしむ姿につながる授業づくりを目指していきたいと思います。